

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスたいよう		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日 ~ 2025年 10月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日 ~ 2025年 10月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 4日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こども家庭庁の指針通りに放課後等デイサービスの運営をしている。法改定にも柔軟に対応している。意図を読み取り義務化される前から早めに実際の支援に取り入れている。	福祉系の情報収集を頻繁に行っている。経営者同士で連絡を取り合って情報交換を行っている。本質を読み解き、支援の方向性の修正、義務化される前に先回りすることを意識している。	管理者、児発管だけでなく職員全員に落とし込む必要がある。こども家庭庁の検討会の議事録や障害福祉サービス基本報酬の中間とりまとめや指導監査事例などを定期的にチェックしていく。当事業所との乖離がないか確認していく。今年の事業所の課題として家族支援（ペアトレ）を強化していくこととする。
2	日々の活動プログラムは4つの基本活動と5領域を意識して職員が立案している。常にPDCAサイクルを実施しより良い支援に繋がるよう検討している。	毎週月曜日に先週の活動に対してPDCAサイクルを意識した振り返りと、今週の活動に対して5領域を意識したねらい等を明確に定め予習を行っている。	今後も考え方を変えず継続していくことと、職員個人個人が利用児の情報（年齢、疾患名、目標、ニーズ等）を把握し、また文献の活用や研修に参加し支援の引き出し及び質の向上をめざしていく。
3	看護師が常駐しており、動ける医ケア児を受け入れ対象としている。保護者からの医療行為依頼があれば、医療的ケアスコアに関係なく医療行為を提供している。利用児だけにとどまらず、保護者や親族などの健康相談や各種サービスの情報提供をしている。	いつでも管理者兼看護師の携帯電話に連絡してOKと伝えている。医療機関へ受診の際も気になる点などの情報をまとめ、データ化等して提供している。	PEARS等の小児救急評価研修受講を促していく。お薬の内服状況等を随時更新していく。てんかん発作時の対応や急変時初期対応等定期的に講習をしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との連携が不足	管理者が業界とのつながりが薄く、1法人としては限界がある。地域の施設利用なども営利法人だと利用不可等の制約があり連携がとれない。	まずは公園などの公共施設を利用しながらゴミ拾いなどの奉仕作業を積極的に行っていくこととする。
2	父母会など未実施	契約時に保護者間の繋がりの希望を確認している。現時点で積極的に繋がりを希望する保護者がいない。	今後も意向確認とマッチングをやっていく。年に1度程度の頻度で事業所内での活動見学（授業参観のようなイメージ）を開催していくと考えている。
3	常勤、非常勤職員との職責の差	非常勤職員への遠慮があり活動の打ち合わせ、支援会議等の参加を促していない。面談により希望者には研修の機会は提供しているが、新入職員を中心に全体的に日々のサービス提供時間の補助がメインとなっており、支援の中核には入っていない。	定められた委員会や避難訓練など実施しているが、実施していることを知らない職員もいた。今後は常勤だけでなく全職員에게周知する必要があると考える。具体的には申し送りノートを活用していく。